

## 自山之石

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

コロナ禍が長引く中で、世界中ではその影響について様々な分析や研究がなされています。中でも注目すべきことの一つに、元米国労働長官として社会的な不平等の研究で知られている UC バークレー公共政策大学院のロバート・ライシュ教授の主張をご紹介します。彼は、「新型コロナのパンデミックは、新しい階級分裂とそこにある不平等を照明する」という分析を発表しました。アメリカの労働人口を対象にして、新型コロナ危機に直面した人々が、次のように4つの新たな階級を形成していると説明します。(以下「コロナ時代における教会の公共性(朴思郁)」という論文からの再引用です。)

第一は、「遠隔勤務の可能な労働者(The Remotes)です。労働者の35%に当たる人々は、専門管理技術の人力として、ノートパソコンを用いて長時間の業務ができ、ウェブ会議や電子文書の」取り扱いができる人たちです。彼らは、コロナ危機の以前とほぼ同じ賃金を受給するため無難に危機を乗り越えることが予想される階級です。

第二は、「必須的働きを担う労働者(The Essentials)」で、全体労働者の30%を占める医者・看護師、在宅介護、保育関係者、農場労働者、飲食配達(供給)、流通業、トラック運転、薬局職員、衛生関連、警察、消防、軍人などを指しています。危機状況の中、なくてはならない仕事を果たしていて、仕事を失うことはありません。しかし、新型コロナへの感染リスクを抱えるグループです。「多くの必須的労働者たちは、保護装備不足に悩まされているため、彼らの保護装備はもちろん危険手当も保障すべきである」と付け加えました。

第三は、「賃金がもらえない労働者(The Unpaid)」です。小売店や食堂、製造業界などで働く人々で、コロナ危機によって無給休暇を強いられたり、職業を失ったりした人たちです。コロナ禍がおさまらない限り、さらに増えて行く憂いがあります。

第四は、「忘れられた労働者(The Forgotten)」です。殆ど見えない、見られないところにいる人々のことです。例えば、刑務所、移民収容所、移住労働者宿舎、ホームレス支援施設などにいる人々です。彼らは、ソーシャルディスタンスを保つことができない空間に滞在するため、最も高い感染リスクにさらされていると言います。

ラッシュ教授は、テレワークが可能な第一グループを除いた第三階級は、貧しくて、非白人系で、不均衡的に新型コロナに感染されていることを指摘しました。そして、結論として「必須的労働者たちが十分に保護されなければ、賃金をもらえない労働者たちが健康より経済活動を優先して働き場に戻っていけば、忘れられた人たちが忘れられたままだらば、誰一人も安全であるとは言えない」と言いました。

ところで、私たちの日本社会の状況はいかがでしょうか。コロナ禍は、しばらく続きます

ので、新たな階級の形成の波も、もう人の事ではありません。家族や知り合いのなかに、以上のような新たな階級の形成の流れに巻き込まれる人も多いのです。こういう中で、詩編記者の望みとおりに「山々が民に平和をもたらし、丘が恵みをもたらしませう。王が民を、この貧しい人々を収め、乏しい人の子らを救い、虐げる者を砕きますように」(詩編 72: 3~4)、切に祈ります。(川口基督教会 牧師)

(編集者追記)

**他山之石** たざんのいし 「他山の石以て玉を攻むべし」詩経より

自分の人格を磨くのに役立つ他山のよくない言行や出来事。「一とする」

「広辞苑」第6版(岩波書店)